

Asian Conference on Pattern Languages of Programs (AsianPLoP)における

“Parenting Patterns: A Pattern Language for Growing with your Child”の発表

環境情報学部 3年 雀部 亜莉子

### 1. 活動日程・会場

2016年2月24日～2016年2月26日 National Taipei University of Technology

### 2. 活動の目的

本研究は、子育てを通して親と子がともに育つための秘訣やコツを、パターン・ランゲージの手法を用いて言語化する試みである。今回の活動では、研究成果を台湾で開催される Asian Conference on Pattern Languages of Programs (AsianPLoP) という国際学会に英語論文として提出し、著者の代表として参加した。国際学会の場では、各国から参加するパターン・ランゲージの研究者より直接、向上・改善のためのアドバイスをもらうことができるため、この講評を踏まえて Parenting Patterns のアップデートができることを目的とした。

### 3. 活動の成果

国際学会参加によって Parenting Patterns の向上・改善を図る今回の活動において、2つの成果があげられた。

#### (1) 論文への客観的なアドバイスを通して改善点が明確になった

まず、学会期日までの定められた期間で、著者以外の学会参加者から選ばれた論文指導者と頻繁に意見交換を行い、より質の高い論文を公表できた。研究室外の客観的な視点からのアドバイスは、成果を分かりやすく論文化する上で非常に役に立った。学会当日には、各国から参加するパターン・ランゲージの研究者より、論文内容について率直に感じたことを直接その場でアドバイスしてもらった。単に著者が自分の研究を一方向的に発表するのではなく、著者以外の参加者間の対話形式のため、議論を聞くなかで客観的に論文および Parenting Patterns を見直すことができた。

#### (2) ワークショップの実施を通して異文化圏に属する参加者の声を聞いた

論文発表のみならず、Parenting Patterns を使った対話のワークショップを開催したことにより、異文化圏に属する参加者がこのパターン・ランゲージをどう受け取るのかを直接知ることができた。違う文化圏であっても、私たちが

掲げていた“Growing with your Child”という核となる考え方は共感された。一方、やはり育った環境、地域が異なることで、子育てにおける秘訣やコツも異なるため、これまでに抽出できなかつた秘訣やコツを、対話のワークショップを通して聞くことができた。ワークショップは非常に盛り上がり、参加者も他の参加者から新しい気づきや発見を得ていたようだった。



Parenting Patterns を使った対話のワークショップのようす

#### 4. 今後の活動

今回の AsianPLoP における発表を経て、論文のみならず、Parenting Patterns 自体も再構成を行って改稿を行う予定である。学会の中で得られたアドバイスや発見をもとに、帰国後、追加でインタビューを行うなどしてアップデートを行う。改稿したものは、より多くの人へ、子育てを通して親と子がともに育つという価値観を知ってもらうため、パターンを使ったワークショップ開催や出版も視野に入れている。